

愛媛大学地域創成研究センター活動報告—平成26年度(2014年4月～2015年3月)

2014年度の地域創成研究センター教員は、センター長・寺谷亮司教授、副センター長・和田寿博教授、佐藤亮子准教授、川岡勉教授(教育学部)、松野尾裕教授(教育学部)、野崎賢也准教授(法文学部)の6名であり、前3者が当センター専任教員である。2014年度は、下記2部門において、多くの活動を実施した。

1. 学術文化創造部門

各センター教員は、地域に根ざした研究や教育効果を意識した学生との協同調査を実施している。前者には、「松山空襲など戦争体験記録プロジェクト」などがある。後者の成果の一部は、日振島調査報告など、本年度に刊行した地域創成研究年報第10号にも掲載されている。また、今年度誕生した「松山アーバンデザインセンター主催の「U30 都市計画—都市設計競技 風景づくり夏の学校 2014—」(道後温泉都市計画コンテスト)に学生とチームを組んで応募し、そのポスター成果は道後温泉商店街や坂の上の雲ミュージアムで展示された。

共同研究の推進・募集と支援に関しては、「えひめ311」、「愛媛グローバルネットワーク」などのNPOとの交流活動を実施し、また「四国遍路と世界の巡礼研究会」などの講演会を支援・後援した。

地域の文化・芸術事業の推進としては、2月18日に、「発酵茶の可能性を探る—世界に誇る国内産地が愛媛に集結—」シンポジウムを開催し、全国から100名を超える参加者を得た。

2. 地域政策部門

同部門におけるシンクタンク機能の推進に関しては、松山市との「道後温泉活性化ワークショップ開催・運營業務」、「道後温泉活性化懇談会」、「松山市清水地区まちづくり協議会」、「松山市中心市街地活性化事業」、「松山市中小企業振興基本条例検討委員会」、「宇和島市津島町御楨地区集落コミュニティ支援事業」、「上島町魚島地域元気アッププロジェクト」、「西条市市民憲章等制定事業」を継続・実施した。特に、「宇和島市津島町御楨地区集落コミュニティ支援事業」では、「元気な集落づくり支援事業」を土台に立ち上がった「みまきガーデン」の運営を軌道にのせるための支援活動として、7・10・11・12・2月にワークショップを実施し、地域住民と運営体制や事業内容についての検討を行った。

地域貢献事業では、「mit まちなか大学」を開催し、市民に向けた「知」の発信に努めた。今年度は、第1回「松山中心部のオフィスビルの動向と課題」(12月18日)、第2回「愛媛らしいお酒を考える—「しづく媛」酒を中心に—」(1月19日)、第3回「元気な島づくりを考える」(1月27日)、第4回「愛媛 大学法文学部地域コース・観光まちづくりコースによるまちづくり報告会」(3月25日)を内容とする講演会を実施した。

松山市との共同事業「地域リーダー養成セミナー」では、今年度は5～7月にカリキュラムを集中的に実施する日程とし、7月16日には清水公民館にて、地元住民の前で「ミニまち改善プロジェクト」成果を報告した。今年度の同事業の修了生は37名であり、地域人材の養成に貢献した。

(地域創成研究センター長 寺谷 亮司)